

俳句王国 平日曜 3時00分~4時00分
 田中紀美 U字工事 小笠原子規さん 見いつけた

★ **これまでの放送** [俳句王国はこちら](#)

放送日 平成26年11月16日放送 今回訪れた場所 富山県朝日町 主宰 星野高士 ゲスト 平山あや

ご当地俳句バトル

- 1 回戦
- 2 回戦
- 3 回戦

テーマ「茶会」

朝日町の山あいの地区に、室町時代から伝わると言われているのが「バタバタ茶」の茶会だ。「バタバタ茶」という名前は、茶わんに入れたお茶を2本茶せんで慌ただしくかき混ぜて飲む仕草からつけられた。ヤブキタという品種を1か月発酵させて作った黒茶を煮出したお茶を使う。この茶会は、ご先祖の月命日や、おめでたい時に、隣近所が集まりひらかれる。山菜の煮物や漬け物などのお茶づけを食べながら、野菜の作り方や料理の味付けなどを教え合い、大切なコミュニケーションの場になっているという。この「茶会」をテーマに3分間で俳句を作った。



文学散歩が趣味俳人
東影 喜子

音連ねゆく
白秋の
ひとま
一間かな

俳句王国チーム

目指すは平成の
与謝蕪村
松田 郷人

バタバタ茶
点つる部落や
秋桜

朝日町チーム

句評募集中!

ご当地俳句バトル 結果

	1回戦	2回戦	3回戦
朝日町チーム		勝	
俳句王国チーム	勝		勝

テーマ句会

今回のテーマ「境目」

[縦書き](#)

主宰		
(しらぬまま ゆいばちかみち かみのるす) 知らぬまま行けば近道神の留守		星野 高士(ほしの たかし)
朝日町チーム		
(とこしえに のこるやくそく しぐれくる) とこしえに残る約束時雨来る	富山県朝日町	平野もとみ(ひらの もとみ)
(はれてきて こぎだすふたり つぎのふね) 晴れて来て漕ぎ出す二人月の舟	富山県朝日町	松田 郷人(まつた ごうじん)
(そらとちの ぎりぎりをちる かきもみじ) 空と地のギリギリを散る柿もみじ	富山市	早川 晃央(はやかわ あきお)
俳句王国チーム		
(めをとじる ひざしせなかりに まっかなあき) 目を閉じる日差し背中に真っ赤な秋		平山 あや(ひらやま あや)
(ゆうばえとなる ぎりぎりを スキーとぶ) 夕映となるぎりぎりをスキー跳ぶ	東京都新宿区	東影 喜子(ひがしかりげ よしこ)
(よごれたる むねにこをたぎ じゅうさんや) 汚れたる胸に子を抱き十三夜	千葉県柏市	鎌田 俊(かまだしゅん)

結果

	バトル1回戦	バトル2回戦	バトル3回戦	句会
朝日町チーム		勝		引分
俳句王国チーム	勝		勝	引分

☆☆ 俳句王国チームの勝利!! ☆☆

わが町自慢俳句

選者 **星野高士**

会場で観覧いただいた方が投句した俳句の中から、入選を選び、自分で発表してもらおう。さらに、その中から特選1句を決定する。特選に選ばれるのはどの句か？

特選		
(ひくなみの おとどころがる あきびより) 引く波の音の転がる秋日和	富山県朝日町	森野 稔(もりのみる)
【句評】ヒスイ海岸の引く波の様子を「音の転がる」と表現したことがうまい。「秋日和」という、時のなかなかな過ぎない、でも日が暮れていく日和を、うまく音で表現し印象に残る一句となっている。聴覚と観察力の優れた一句。		
入選		
(はまべでは たらぬしやき したならす) 浜辺では鱈の串焼き舌鳴らす	富山県朝日町	尾山 好正(おやま よしまさ)
【句評】鮎だらたらつまらないが、「鱈の串焼き」はぜひ食べてみたい。そろそろ訪れる初雪など、季節の押し寄せる感じが、味覚から感じられる一句。「舌鳴らす」とはほぼおいしいのでしょう。実においしい俳句としていただいた。		
(くりおこわ みずがおいしい からおいし) くりおこわ水がおいしいからおいし	富山県魚津市	高見 和志(たかみ かずし)
【句評】富山は水がおいしい。「おいしい」を繰り返している点と、「水」だけ漢字を用いたこともおもしろい。ここから出来た俳句ではないか。		